

テニス協会の設立の頃



山梨県テニス協会

副会長 望月政男

昭和41年の暮れ、家業を継ぐべき東京の会社を辞して郷里に帰ってきました。

大学の頃テニス部に属し、一応四年間テニスをして会社でもしておりましたので、当時の私の唯一の趣味はテニスでした。

私の同級生で親友の飯室訓勇氏(現県テニス協会副会長)を誘って早朝テニスを始めました。次第に仲間も増えてきました。そんな折、やはりテニスの愛好者で高校の先生をしておられた土屋金藏氏(現県テニス協会会長)が、一緒にテニス協会をつくろうと言う話になってできたのが山梨県テニス協会です。

当時はテニスを庭球と呼んでいたので、テニス協会にするのか庭球協会にするのか話し合った思い出があります。

50年の歴史の中で思い出深いのは、やはり昭和61年のかいじ国体です。人数も少なく組織力もない県テニス協会が、果たして国体が運営できるか県も大変心配していました。

当時の役員はみんな若く、一致団結してどの県にも負けない立派なテニス大会を運営し、その上総合優勝までしました。

その時の一番の収穫は、立派なオムニのテニスコート16面が出来たことです。こんな環境に恵まれた山梨県の立派なコートでテニスができることは、愛好者にとってどんなに素晴らしいことか。

翌年沖縄国体があり私も壮年選手で出場しましたが、そのコートはコンクリートでした。コートに立った時、沖縄の熱暑と陽の照り返しで目がクラクラして、とても試合どころではありませんでした。

平成26年の長崎国体では、成年女子が優勝するまでになりました。

ここまで成長した山梨県のテニスを牽引した山梨県テニス協会の50年間の努力と関係各位に、心から感謝と拍手を送りたいとおもいます。